2025 年 7 月 11 日

岡山県感染症週報 2025 年第 27 週（6 月 30 日 ～ 7 月 6 日）

◆2025 年　第 27 週（ 6 / 30 ～ 7 / 6 ）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況（第 27 週届出分）

第 25 週　4 類感染症　レジオネラ症　1 名（90 代　男）
　　5 類感染症　百日咳　1 名（50 代　男）
第 26 週　2 類感染症　結核　1 名（70 代　女）
　　5 類感染症　百日咳　1 名（80 代　女）
第 27 週　2 類感染症　結核　4 名（20 代　男 1、60 代　男 1・女 1、70 代　男 1）
　　3 類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　3 名（O146：20 代　女 3）
　　4 類感染症　日本紅斑熱　2 名（70 代　男 1、90 代　男 1）
　　レジオネラ症　2 名（50 代　女 1、60 代　男 1）
　　5 類感染症　急性脳炎　1 名（幼児　男）
　　劇症型溶血性レンサ球菌感染症　1 名（70 代　男）
　　侵襲性肺炎球菌感染症　1 名（幼児　男）
　　梅毒　4 名（20 代　男 1、30 代　男 1、50 代　男 1、60 代　男 1）
　　百日咳　71 名（乳児　女 1、幼児　男 2、小学生　男 18・女 18、
　　中学生　男 2・女 6、高校生　男 3・女 3、10 代　女 1、20 代　女 2、
　　30 代　女 2、40 代　男 1・女 4、50 代　男 3、60 代　男 1・女 1、
　　70 代　女 3）

© 岡山県「ももっち」

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：ARI 定点 50、小児科定点 28、眼科定点 12、STD 定点 18、基幹定点 5

○新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 56 名（定点あたり 1.12 人）の報告がありました。
○急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 2,609 名（定点あたり 52.18 人）の報告がありました。
○伝染性紅斑およびヘルパンギーナの報告数が多くなっています。

---

1. 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、県全体で 56 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 1.08 → 1.12 人）。地域別では、倉敷市（1.92 人）、備中地域（1.80 人）、備北地域（1.50 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。年代別では、10 代以下、30 代および 50 代で前週から増加しました。基本的な感染防止策（効果的な場面でのマスク着用、手洗い等の手指衛生、換気、3 密（密閉・密集・密接）の回避、健康的な日常生活、体調不良時の備え）に留意し、自主的な判断により実施しましょう。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）情報』をご覧ください。

2. 急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 2,609 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 49.14 → 52.18 人）。詳しくは、**「☆急性呼吸器感染症(ARI)情報」**および岡山県感染症情報センターホームページ『急性呼吸器感染症（ARI）情報』をご覧ください。

3. 日本紅斑熱は、2025 年第 27 週に 2 名の報告があり、2025 年の累計報告数は 11 名となりました（2024 年の同時期：7 名）。ダニが媒介する感染症として、他に重症熱性血小板減少症候群（SFTS）やつつが虫病などがあります。これらは、病原体を保有するツツガムシまたはマダニに刺咬されることで感染します。また、SFTS に関してはイヌやネコからの感染も報告されています。ダニに刺咬されないための予防対策等については**コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう！」**をご覧ください。

4. 梅毒は、2025 年第 27 週に 4 名の報告があり、2025 年の累計報告数は 141 名となりました（2024 年の同時期：185 名）。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『梅毒について』をご覧ください。

5. 百日咳は、2025 年第 27 週に 71 名の報告があり、2025 年の累計報告数は全数把握による統計を開始した 2018 年以降最多の 1,257 名となりました。詳しくは**「今週の注目感染症①」**をご覧ください。

6. 伝染性紅斑は、県全体で 27 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 0.89 → 0.96 人）。詳しくは**「今週の注目感染症②」**をご覧ください。

7. ヘルパンギーナは、県全体で 75 名の報告があり、前週から増加しました（定点あたり 1.50 → 2.68 人）。この感染症は、夏かぜの一種であり、例年 7～8 月頃が流行のピークとなります。特異的な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます。病気の特徴、予防法は次をご覧ください。
→ 『ヘルパンギーナ』（国立健康危機管理研究機構）

流行の推移

疾病名	定点あたり報告数		推移	疾病名	定点あたり報告数		推移
	前週	今週			前週	今週	
インフルエンザ	0.10	0.28	↗	突発性発しん	0.36	0.54	↗
COVID-19	1.08	1.12	→	ヘルパンギーナ	1.50	2.68	↗
急性呼吸器感染症(ARI)	49.14	52.18	→	流行性耳下腺炎	0.11	0.04	↘
RSウイルス感染症	0.46	0.21	↘	急性出血性結膜炎	0.08	0.00	↘
咽頭結膜熱	0.36	0.29	↘	流行性角結膜炎	0.08	0.42	↗
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.11	1.64	↗	細菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
感染性胃腸炎	5.57	4.29	↘	無菌性髄膜炎	0.00	0.00	→
水痘	0.18	0.39	↗	マイコプラズマ肺炎	0.80	1.40	↗
手足口病	0.61	0.54	↘	クラミジア肺炎	0.00	0.00	→
伝染性紅斑	0.89	0.96	→	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.00	0.00	→

【記号の説明】 前週からの推移 ↗ ：増加 → ：ほぼ増減なし ↘ ：減少 増加･減少 ： 前週比10%以上の増減

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、**日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）※、つつが虫病**などを引き起こす病原体を保有しているものがいます。

ダニは、春から秋（3 月～11 月）にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤（マダニ、ツツガムシの忌避を効能としているもの）を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。

また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

吸血後の
フタトゲチマダニ♀

※SFTS は SFTS ウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
体調不良のペットや野生動物との接触は避けましょう。

ヤマアラシチマダニ

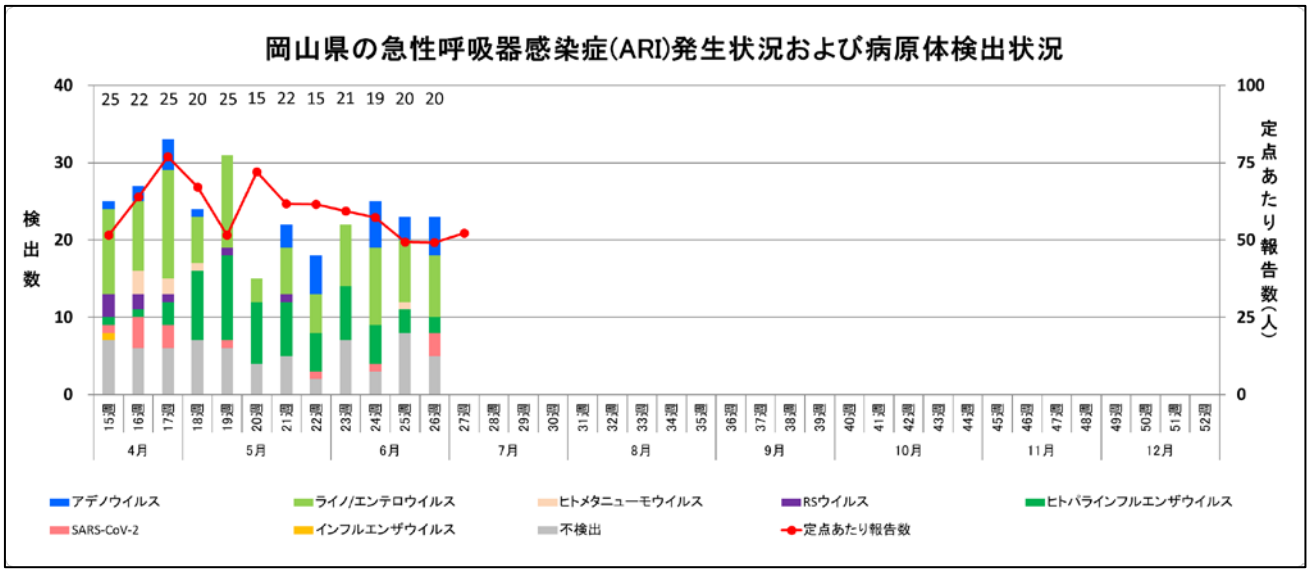
岡山県環境保健センター
ウイルス科 撮影画像

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

⇒ 日本紅斑熱 （国立健康危機管理研究機構）
⇒ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関するQ&A （厚生労働省）
⇒ ツツガムシ病とは （国立健康危機管理研究機構）
⇒ マダニ対策、今できること （国立健康危機管理研究機構）

☆急性呼吸器感染症（ARI）情報

1.　岡山県の流行状況（第 27 週（ 6 / 30 ～ 7 / 6 ））



※定点把握対象となった第 15 週から表示しています。
※病原体の検出については検体を採取した週に計上しています。
※1 検体から複数のウイルスが検出された場合はそれぞれ計上しています。
※グラフ上部の数字は検体数を示しています。
※急性呼吸器感染症（ARI）定点医療機関数：50 医療機関（内科定点 22、小児科定点 28）
※急性呼吸器感染症（ARI）病原体定点医療機関数：5 医療機関（内科定点 2、小児科定点 3）

急性呼吸器感染症（ARI）は、県全体で 2,609 名の報告があり、前週とほぼ同数でした（定点あたり 49.14→52.18 人）。地域別では、備中地域（102.00 人）、岡山市（57.61 人）、倉敷市（53.08 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。基本的な感染防止策（換気や手洗い・手指消毒、マスクの着用を含めた咳エチケットなど）に留意し、感染対策に努めましょう。

2025 年第 27 週に環境保健センターに搬入された検体はありませんでした。

2.　新型コロナウイルスゲノム解析結果

ゲノム解析の状況は以下のホームページをご覧ください。

〇岡山県の状況

→ 新型コロナウイルスのゲノム解析（岡山県感染症情報センター）

〇全国の状況

→ SARS-CoV-2 変異株について（国立健康危機管理研究機構）

今週の注目感染症①

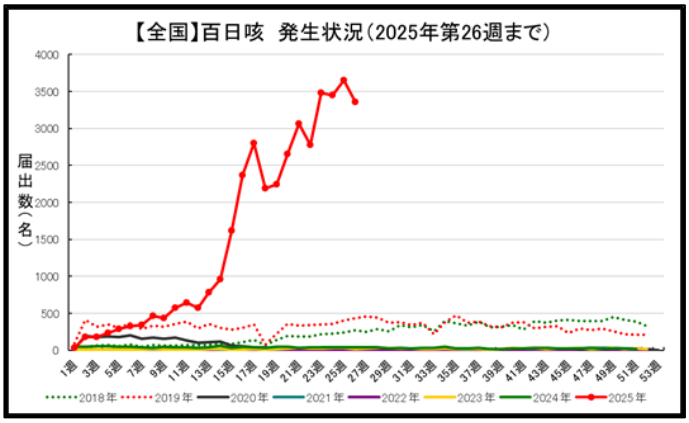
☆百日咳

●感染経路および症状

百日咳は、百日咳菌による急性の気道感染症で、一年を通じて発生がみられます。感染経路は患者の咳などによる飛沫感染や接触感染です。

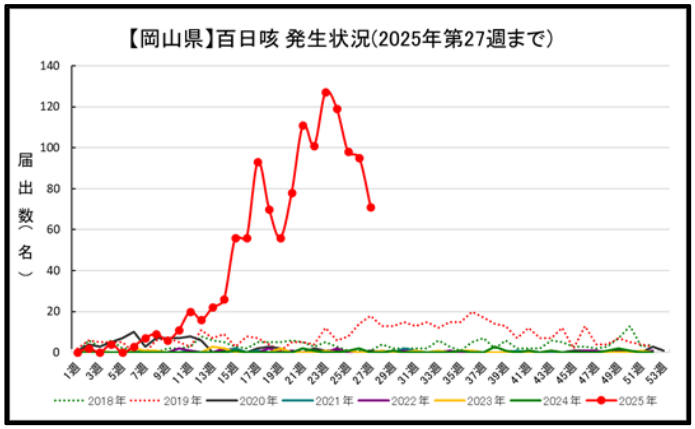
感染後、通常 7～10 日間程度の潜伏期を経て発症し、風邪症状で始まり、次第に咳の回数が増えます（カタル期：約 2 週間）。

咳は次第に発作性けいれん性の咳（けい咳）となり、発作をくり返します。おう吐や顔面浮腫を起こしたり、乳児期早期では特徴的な咳がなく、無呼吸発作により、重篤となることがあります。合併症としては肺炎や脳症などもあり特に乳児では注意が必要です（けい咳期：2～3 週間）。



全経過 2～3 か月で次第に回復していきますが、時折発作性の咳が出ることがあります（回復期）。

成人では咳が長期にわたって続きますが、典型的な発作性の咳がでることなく回復するため、見逃されやすくワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源として注意が必要です。



[百日咳（厚生労働省）]
[百日咳にご注意下さい（厚生労働省）]
[百日咳（国立健康危機管理研究機構）]

●治療・予防方法

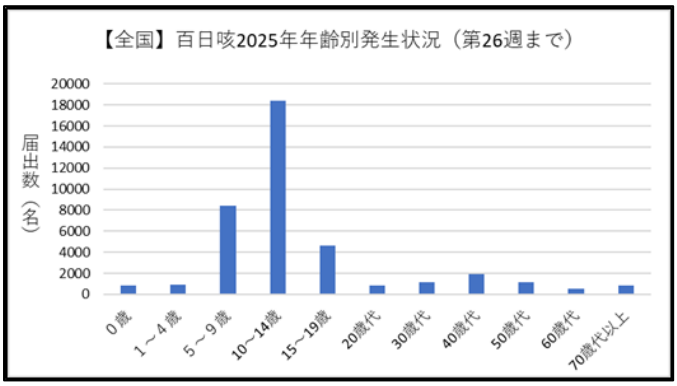
治療は生後 6 か月以上の患者にはマクロライド系の抗菌薬が用いられます。また、咳が激しい場合には、咳止め薬も用いられることがあります。

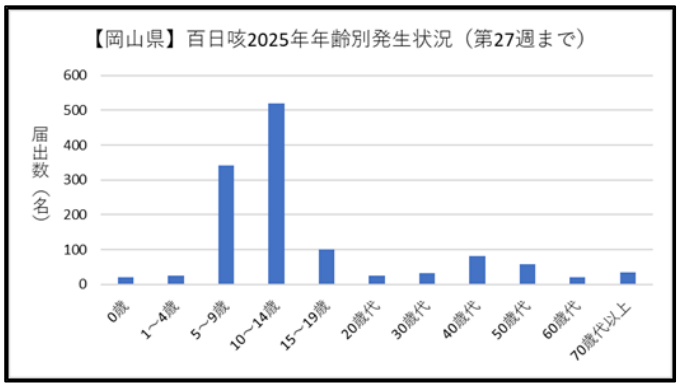
予防法は、予防接種のほか、感染者との接触を避ける、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。感染時は『咳エチケット』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。また、風邪と見分けがつかないまま、感染を広げる可能性があるため、咳が続く場合は早めに医療機関を受診しましょう。

●発生状況

全国では第 26 週に 3,353 名の届出があり、2025 年の累計届出数は 39,672 名となっています（2025 年 7 月 2 日時点）。年齢別では、5～14 歳で多く発生しています。

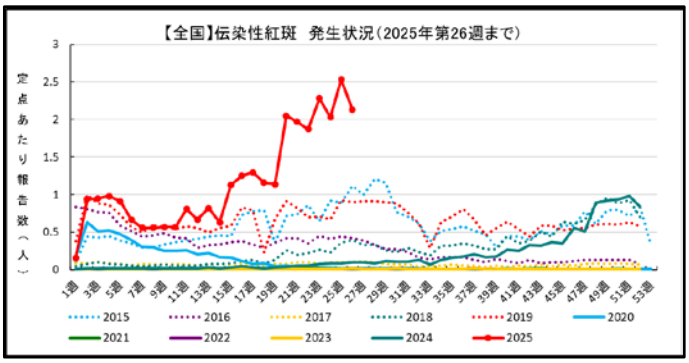
岡山県では第 27 週に 71 名の届出があり、2025 年の累計届出数は 1,257 名となっています（2025 年 7 月 9 日時点）。年齢別では、全国と同様に 5～14 歳で多く発生しています。

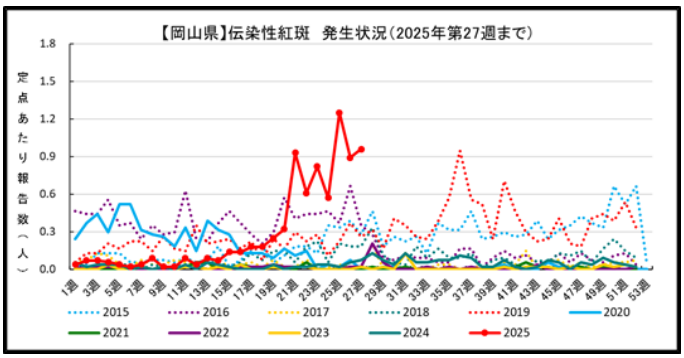


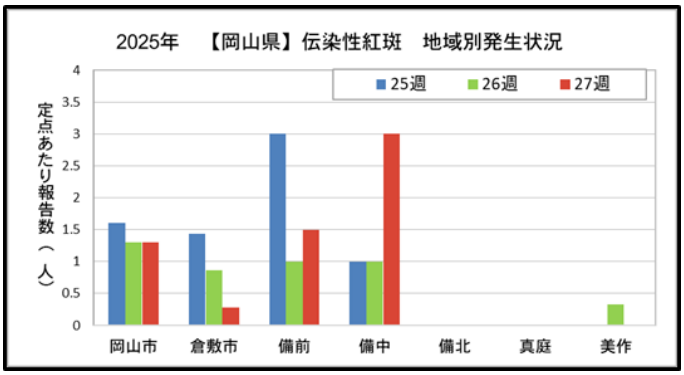


今週の注目感染症②

☆伝染性紅斑







●感染経路および症状

伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 による感染症で、小児を中心にみられる流行性発しん性疾患です。両頬に赤い発しん（紅斑）が出ることから「リンゴ病」とも呼ばれます。感染経路は患者の咳などによる飛沫感染や接触感染です。

約 10～20 日の潜伏期間の後、両頬に蝶の羽のような境界鮮明な赤い発しん（紅斑）が現れます。続いて、体や手・足に網目状やレース状の発しんが広がります。多くの場合、頬に発しんが出現する 7～10 日くらい前に、微熱や風邪の症状などが見られ、この時期にウイルスの排出が最も多くなりますが、発しんが現れたときにはウイルスの排出はほとんどなく、感染力もほぼ消失しています。その後これらの発しんは一週間程度で消失しますが、中には長引いたり、発しんが再び出現することがあります。

成人では関節痛を伴う関節炎や頭痛などの症状が見られることもありますが、ほとんどは合併症を起こすことなく自然治癒します。

伝染性紅斑（厚生労働省）

伝染性紅斑（国立健康危機管理研究機構）

●治療・予防方法

伝染性紅斑には特別な治療法はなく、対症療法が行われます。

ヒトパルボウイルス B19 は、紅斑が出ている時期にはほとんど排出されていません。そのため、予防法は初期症状である風邪症状がある方との接触を避ける、うがいや手洗い、手指の消毒を行うなどです。風邪症状のある人は『咳エチケット』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。

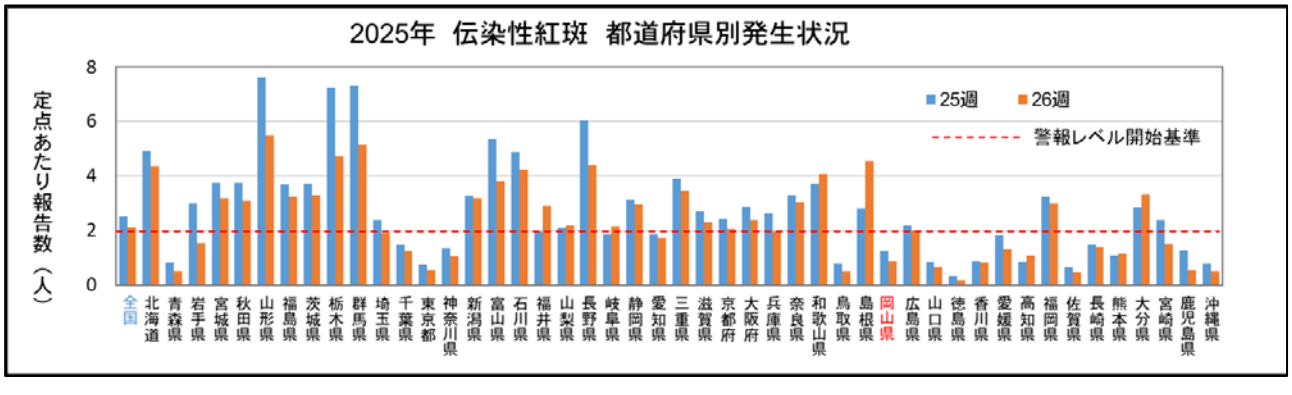
●妊娠中又は妊娠の可能性がある方へ

これまでヒトパルボウイルス B19 に感染したことのない女性が妊娠中に感染した場合、胎児にも感染し、胎児水腫などの重篤な状態や流産のリスクとなる可能性があります。熱や倦怠感が出現した後に発しんが出る等、伝染性紅斑を疑う症状がある場合は医療機関に相談しましょう。また、周囲に伝染性紅斑の人がいる場合は、症状がない場合も妊婦検診の際に医師に伝えてください。

●発生状況

全国の第 26 週の定点あたり報告数は第 25 週から減少しました（2.53→2.13 人）。都道府県別では、山形県（5.50 人）、群馬県（5.16 人）、栃木県（4.74 人）の順に定点あたり報告数が多く、25 道府県で警報レベルの 2.00 人を超えています。

岡山県の第 27 週の定点あたり報告数は前週とほぼ同数でした（0.89→0.96 人）。地域別では、備中地域（3.00 人）、備前地域（1.50 人）、岡山市（1.30 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。



◆◆◆ 食中毒予防の３原則 ◆◆◆

岡山県は食中毒注意報を発令中です！

次の３原則を心がけ、予防に努めましょう。

➢ 「清潔」（菌をつけない）

・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
・台所は、整理整頓し、常に清潔にしましょう。
・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➢ 「迅速・冷却」（菌を増やさない）

・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
（生食用鮮魚介類は、４℃以下で保存するよう努めましょう。）

➢ 「加熱」（菌をやっつける）

・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう。

© 岡山県「ももっち・うらっち」

食中毒予防の３原則（岡山県生活衛生課）
家庭でできる食中毒予防の６つのポイント（厚生労働省）
家庭でできる食中毒予防の６つのポイント（厚生労働省作成チラシ）

保健所別報告患者数　2025年 第27週（定点把握）　（ 2025/06/30～2025/07/06 ）

2025年7月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	14	0.28	2	0.11	1	0.08	6	1.50	4	0.80	–	–	1	0.50	–	–
COVID-19	56	1.12	16	0.89	23	1.92	–	–	9	1.80	6	1.50	1	0.50	1	0.20
急性呼吸器感染症	2609	52.18	1037	57.61	637	53.08	172	43.00	510	102.00	128	32.00	29	14.50	96	19.20
RSウイルス感染症	6	0.21	–	–	4	0.57	–	–	1	0.33	–	–	–	–	1	0.33
咽頭結膜熱	8	0.29	2	0.20	2	0.29	1	0.50	1	0.33	–	–	–	–	2	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	46	1.64	12	1.20	18	2.57	3	1.50	12	4.00	–	–	–	–	1	0.33
感染性胃腸炎	120	4.29	56	5.60	31	4.43	2	1.00	8	2.67	4	2.00	1	1.00	18	6.00
水痘	11	0.39	4	0.40	1	0.14	–	–	5	1.67	–	–	–	–	1	0.33
手足口病	15	0.54	9	0.90	1	0.14	–	–	3	1.00	–	–	–	–	2	0.67
伝染性紅斑	27	0.96	13	1.30	2	0.29	3	1.50	9	3.00	–	–	–	–	–	–
突発性発しん	15	0.54	10	1.00	2	0.29	–	–	2	0.67	–	–	–	–	1	0.33
ヘルパンギーナ	75	2.68	17	1.70	21	3.00	1	0.50	26	8.67	–	–	4	4.00	6	2.00
流行性耳下腺炎	1	0.04	1	0.10	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	2	0.50	1	1.00	–	–	–	–	–	–	–	–
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	7	1.40	2	2.00	2	2.00	–	–	–	–	3	3.00	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

（ – ： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

保健所別報告患者数　2025年 第27週（発生レベル設定疾患）　（ 2025/06/30～2025/07/06 ）　2025年7月10日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	14	0.28	2	0.11	1	0.08	6	1.50	4	0.80	－	－	1	0.50	－	－
咽頭結膜熱	8	0.29	2	0.20	2	0.29	1	0.50	1	0.33	－	－	－	－	2	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	46	1.64	12	1.20	18	2.57	3	1.50	12	4.00	－	－	－	－	1	0.33
感染性胃腸炎	120	4.29	56	5.60	31	4.43	2	1.00	8	2.67	4	2.00	1	1.00	18	6.00
水痘	11	0.39	4	0.40	1	0.14	－	－	5	1.67	－	－	－	－	1	0.33
手足口病	15	0.54	9	0.90	1	0.14	－	－	3	1.00	－	－	－	－	2	0.67
伝染性紅斑	27	0.96	13	1.30	2	0.29	3	1.50	9	3.00	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	75	2.68	17	1.70	21	3.00	1	0.50	26	8.67	－	－	4	4.00	6	2.00
流行性耳下腺炎	1	0.04	1	0.10	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	2	0.50	1	1.00	－	－	－	－	－	－	－	－

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2を示しています。

（－： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2025年　第27週　 2025/06/30～2025/07/06 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	14	–	–	1	–	–	–	–	–	1	–	–	3	–	1	1	–	3	1	3	–
COVID-19	56	1	2	2	1	–	1	–	–	1	–	–	5	1	2	6	6	10	4	7	7

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性呼吸器感染症	2609	240	1149	510	256	84	43	56	58	52	54	63	44

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	6	1	1	4	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	8	–	–	3	1	1	1	2	–	–	–	–	–	–	–
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	46	1	–	3	2	3	8	6	8	4	3	–	7	–	1
感染性胃腸炎	120	–	12	20	12	16	7	10	2	9	7	5	12	2	6
水痘	11	–	–	2	–	2	1	–	–	–	3	–	3	–	–
手足口病	15	1	2	5	3	2	1	1	–	–	–	–	–	–	–
伝染性紅斑	27	–	–	2	1	2	7	4	4	3	2	1	1	–	–
突発性発しん	15	–	1	8	3	2	–	1	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	75	1	4	30	23	3	8	3	1	–	–	1	1	–	–
流行性耳下腺炎	1	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	5	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1	1	2	–	1	–	–	–

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	7	–	2	3	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

（－： 0 ）

新型コロナウイルス感染症（COVID-19） 報告患者数 2025年第 27週（定点把握） （ 2025/06/30～2025/07/06 ） 2025年7月10日

保健所別

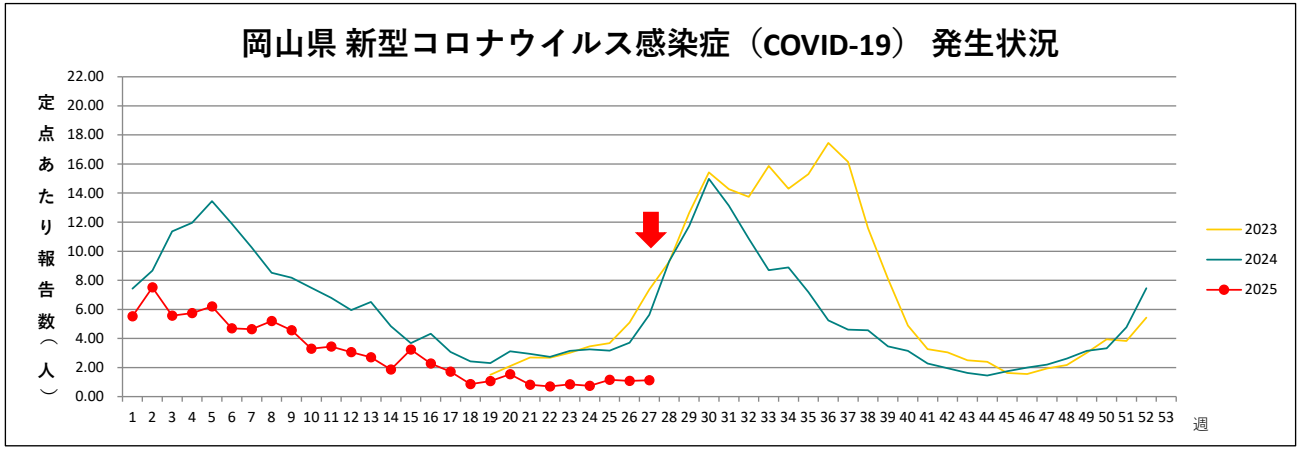
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	56	1.12	16	0.89	23	1.92	－	－	9	1.80	6	1.50	1	0.50	1	0.20

（－： 0 or 0.00 ）

年齢別

疾病名	合計	−6ヶ月	−12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10−14	15−19	20−29	30−39	40−49	50−59	60−69	70−79	80～
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）	56	1	2	2	1	－	1	－	－	1	－	－	5	1	2	6	6	10	4	7	7

（－： 0 ）



急性呼吸器感染症(ARI) 報告患者数 2025年第 27週(定点把握) (2025/06/30～2025/07/06) 2025年7月10日

保健所別

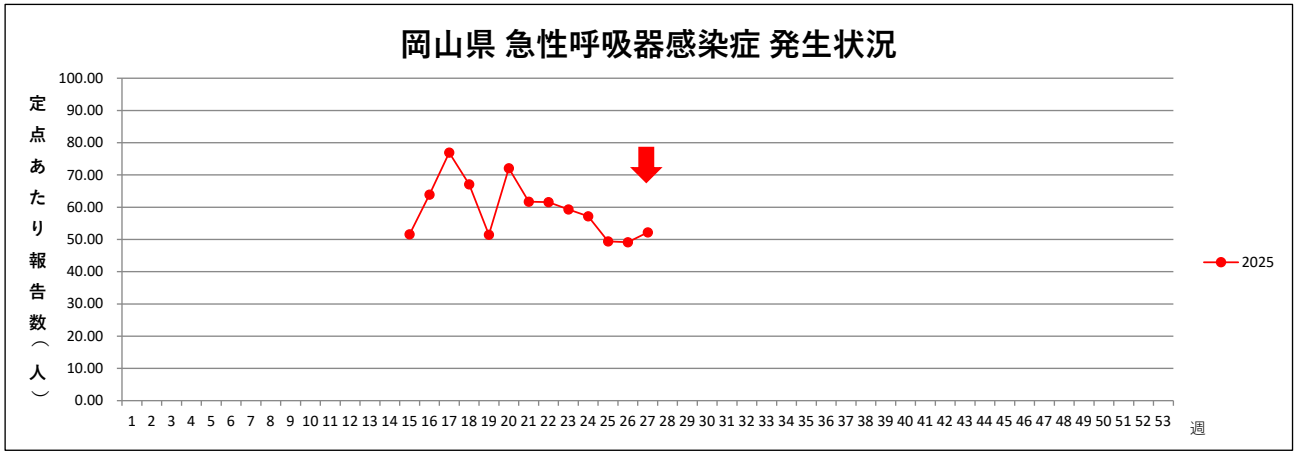
疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
急性呼吸器感染症(ARI)	2,609	52.18	1,037	57.61	637	53.08	172	43.00	510	102.00	128	32.00	29	14.50	96	19.20

(－ : 0 or 0.00)

年齢別

疾病名	合計	-12ヶ月	1-4	5-9	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
急性呼吸器感染症(ARI)	2,609	240	1,149	510	256	84	43	56	58	52	54	63	44

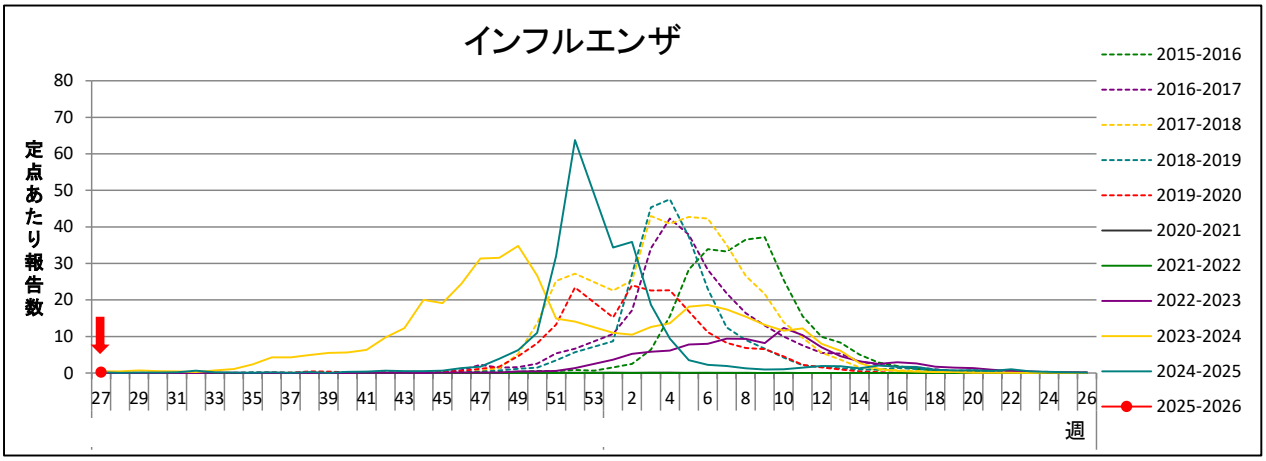
(－ : 0)

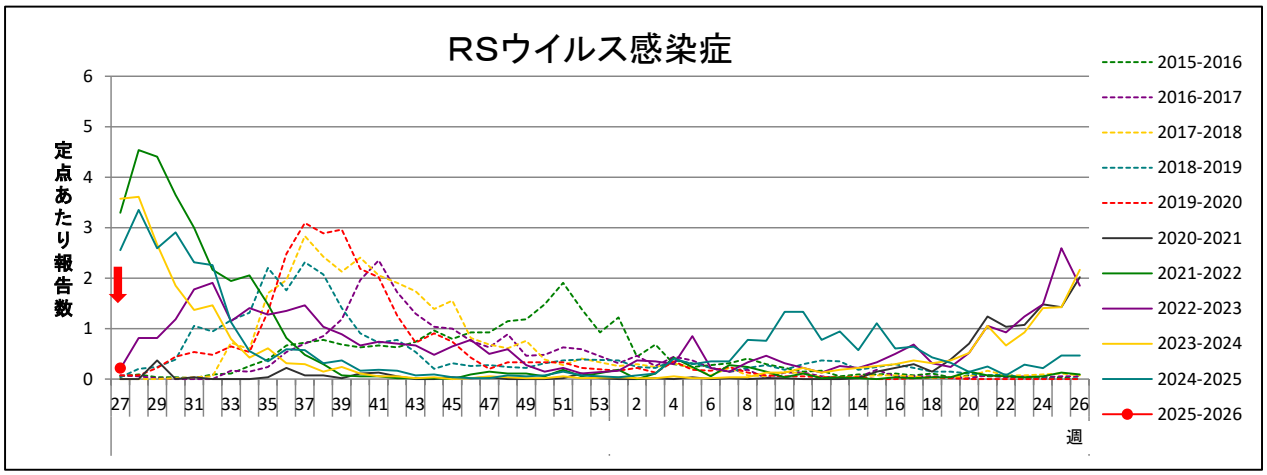


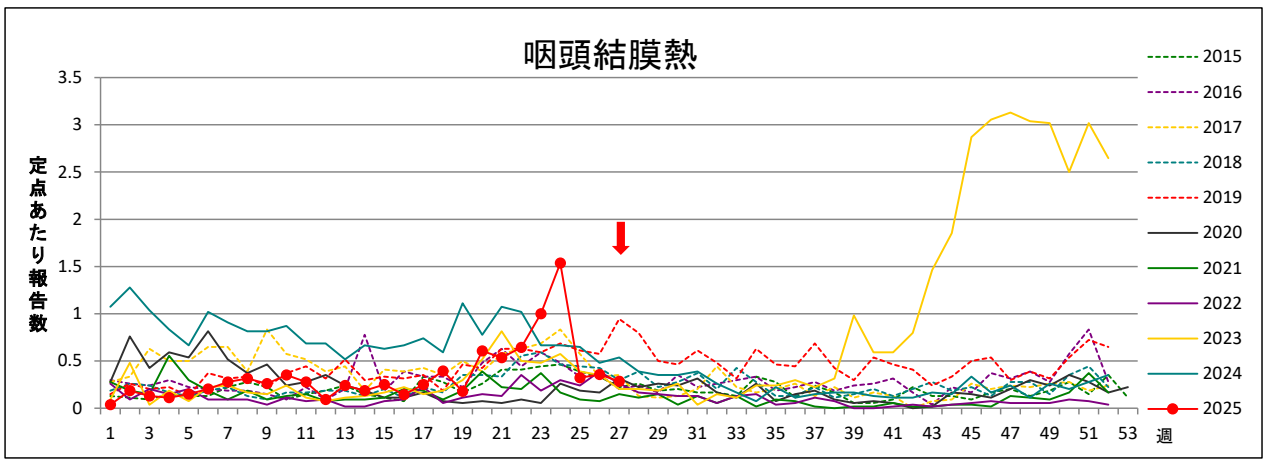
全数把握 感染症患者発生状況

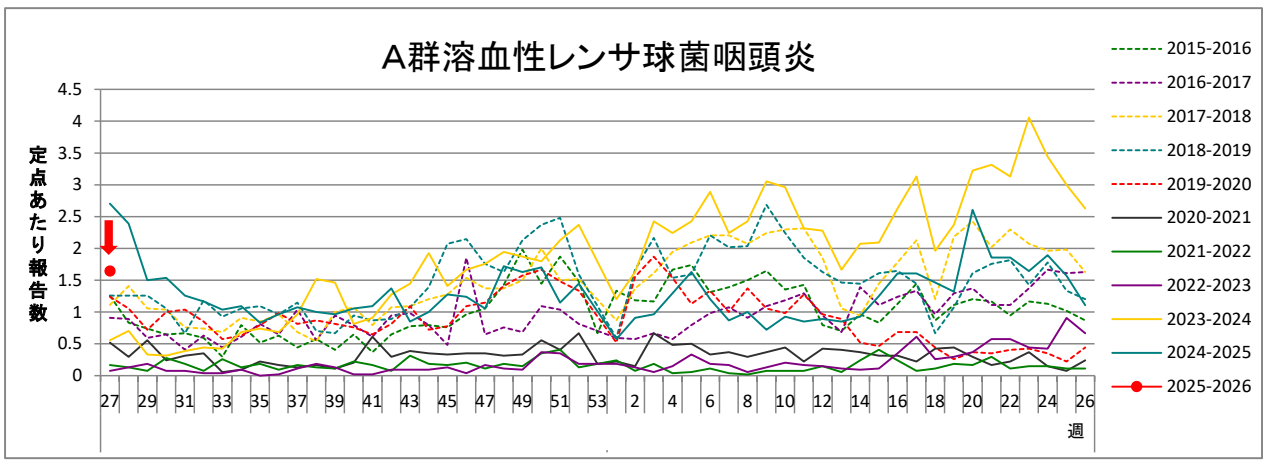
2025 年 27 週

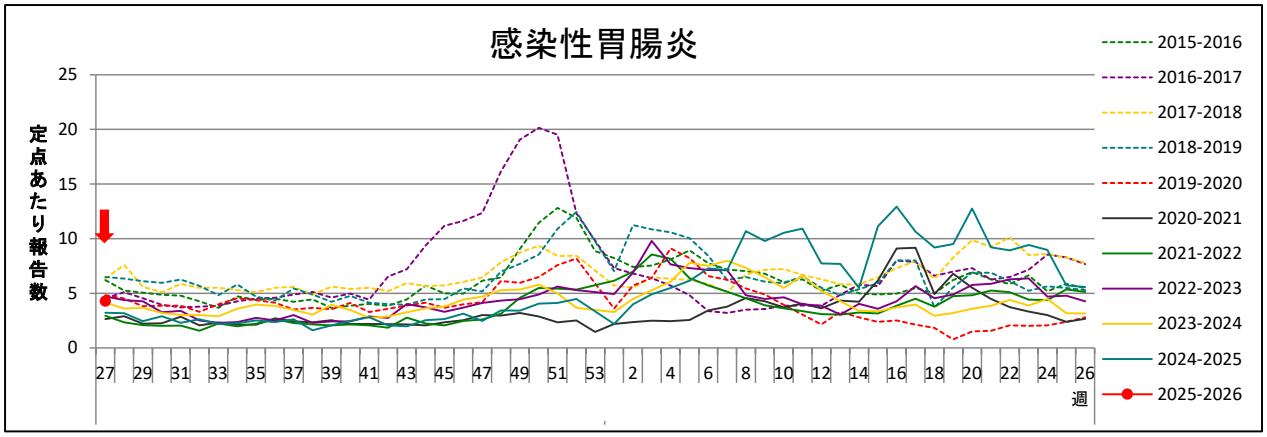
分類	疾病名	2025 今週	2025 累計	2024 昨年	疾病名	2025 今週	2025 累計	2024 昨年	疾病名	2025 今週	2025 累計	2024 昨年
一類	エボラ出血熱	−	−	−	クリミア・コンゴ出血熱	−	−	−	痘そう	−	−	−
	南米出血熱	−	−	−	ペスト	−	−	−	マールブルグ病	−	−	−
	ラッサ熱	−	−	−								
二類	急性灰白髄炎	−	−	−	結核	4	123	246	ジフテリア	−	−	−
	重症急性呼吸器症候群	−	−	−	中東呼吸器症候群	−	−	−	鳥インフルエンザ（H5N1）	−	−	−
	鳥インフルエンザ（H7N9）	−	−	−								
三類	コレラ	−	−	−	細菌性赤痢	−	−	1	腸管出血性大腸菌感染症	3	21	63
	腸チフス	−	−	2	パラチフス	−	−	−				
四類	E型肝炎	−	3	1	ウエストナイル熱	−	−	−	A型肝炎	−	1	4
	エキノコックス症	−	−	−	エムポックス	−	−	−	黄熱	−	−	−
	オウム病	−	−	−	オムスク出血熱	−	−	−	回帰熱	−	−	−
	キャサヌル森林病	−	−	−	Q熱	−	−	−	狂犬病	−	−	−
	コクシジオイデス症	−	−	−	ジカウイルス感染症	−	−	−	重症熱性血小板減少症候群	−	5	1
	腎症候性出血熱	−	−	−	西部ウマ脳炎	−	−	−	ダニ媒介脳炎	−	−	−
	炭疽	−	−	−	チクングニア熱	−	−	−	つつが虫病	−	−	−
	デング熱	−	−	−	東部ウマ脳炎	−	−	−	鳥インフルエンザ	−	−	−
	ニパウイルス感染症	−	−	−	日本紅斑熱	2	11	21	日本脳炎	−	−	−
	ハンタウイルス肺症候群	−	−	−	Bウイルス病	−	−	−	鼻疽	−	−	−
	ブルセラ症	−	−	−	ベネズエラウマ脳炎	−	−	−	ヘンドラウイルス感染症	−	−	−
	発しんチフス	−	−	−	ボツリヌス症	−	−	−	マラリア	−	−	−
	野兎病	−	−	−	ライム病	−	−	−	リッサウイルス感染症	−	−	−
	リフトバレー熱	−	−	−	類鼻疽	−	−	−	レジオネラ症	2	28	42
	レプトスピラ症	−	−	−	ロッキー山紅斑熱	−	−	−				
五類	アメーバ赤痢	−	3	10	ウイルス性肝炎	−	1	5	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	−	15	36
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	−	−	3	急性脳炎	1	9	16	クリプトスポリジウム症	−	−	−
	クロイツフェルト・ヤコブ病	−	1	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	11	30	後天性免疫不全症候群	−	4	8
	ジアルジア症	−	−	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	−	5	13	侵襲性髄膜炎菌感染症	−	1	3
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	37	35	水痘（入院例に限る。）	−	3	11	先天性風しん症候群	−	−	−
	梅毒	4	141	355	播種性クリプトコックス症	−	−	5	破傷風	−	−	−
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	−	−	−	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	−	−	−	百日咳	71	1,257	19
	風しん	−	−	−	麻しん	−	3	−	薬剤耐性アシネトバクター感染症	−	−	−

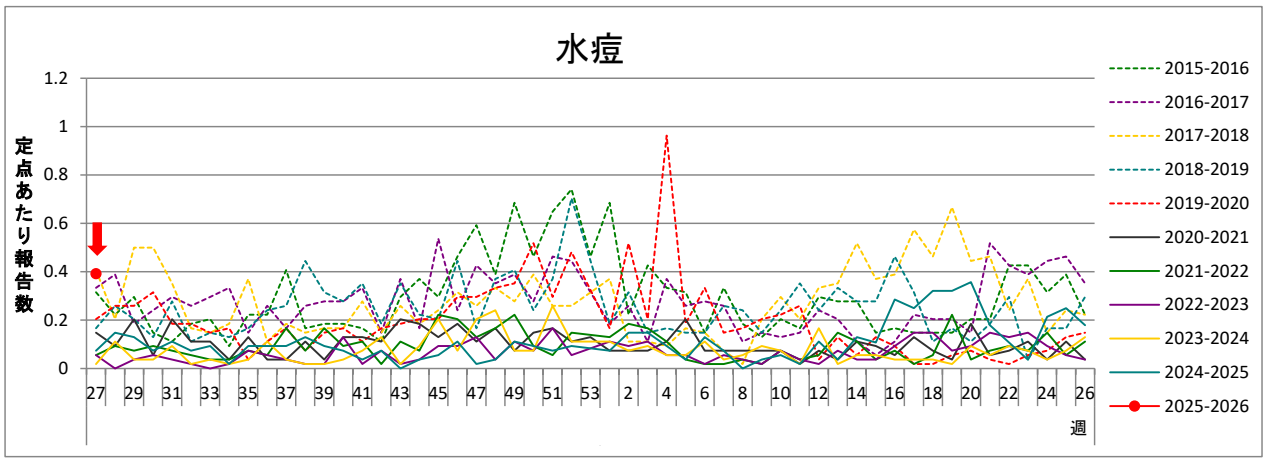

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026

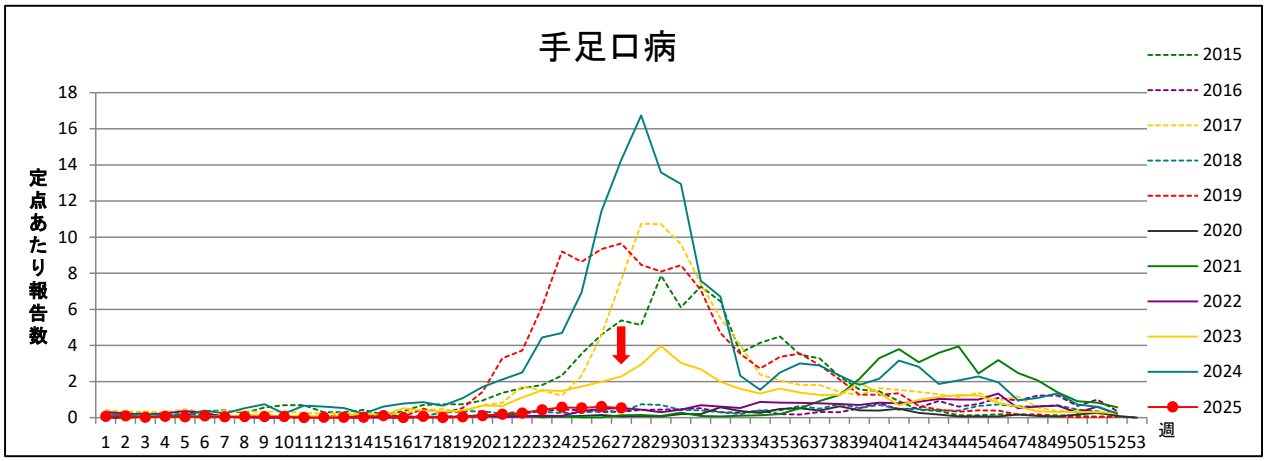

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026

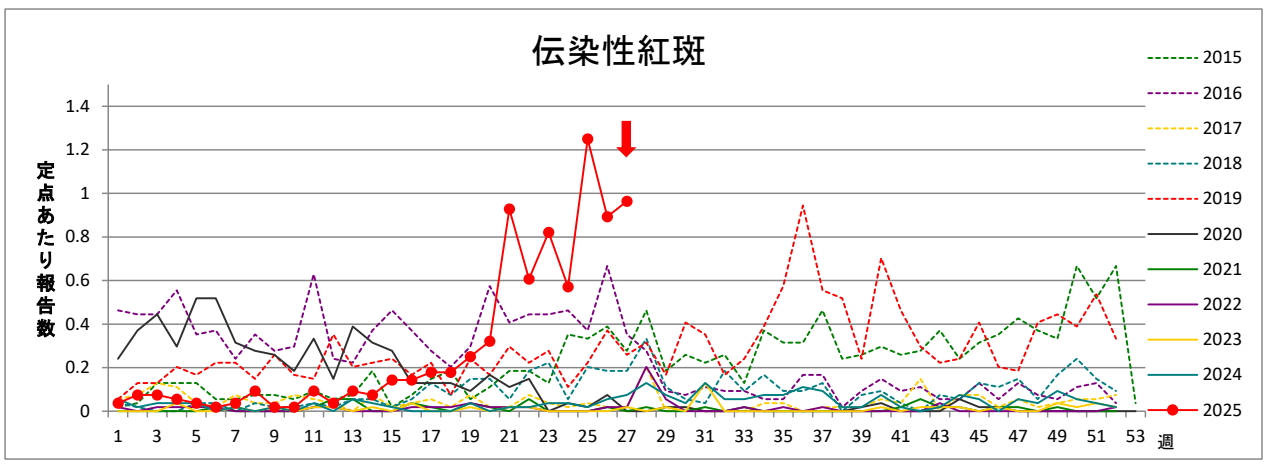

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
週
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025

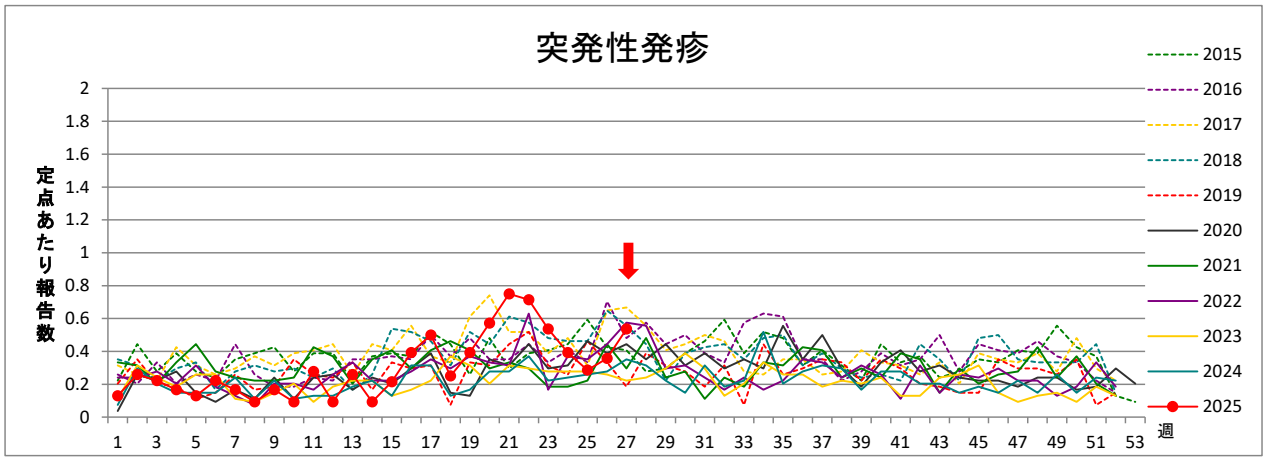

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
週
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026

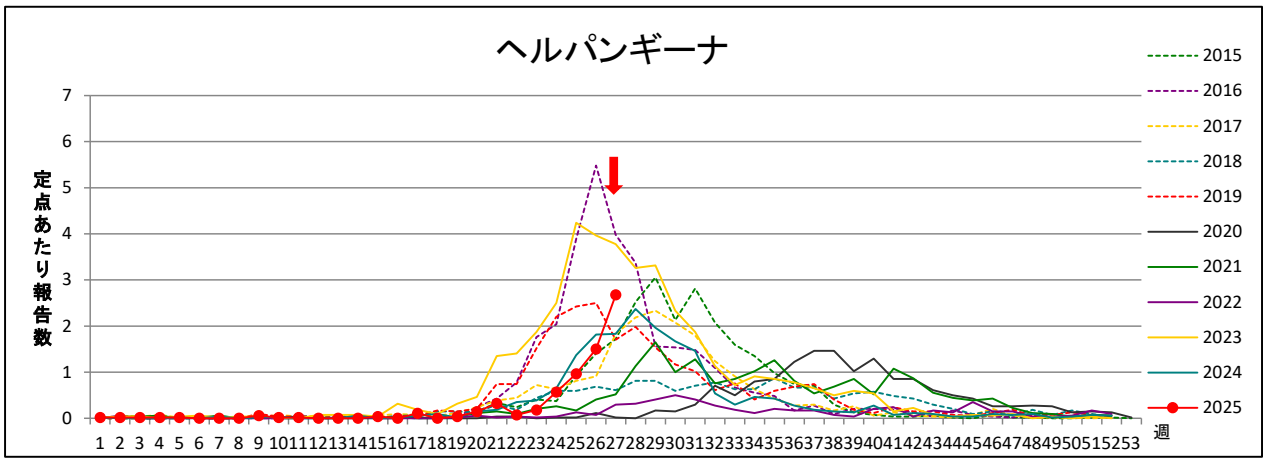

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
25
20
15
10
5
0
27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26
週
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026

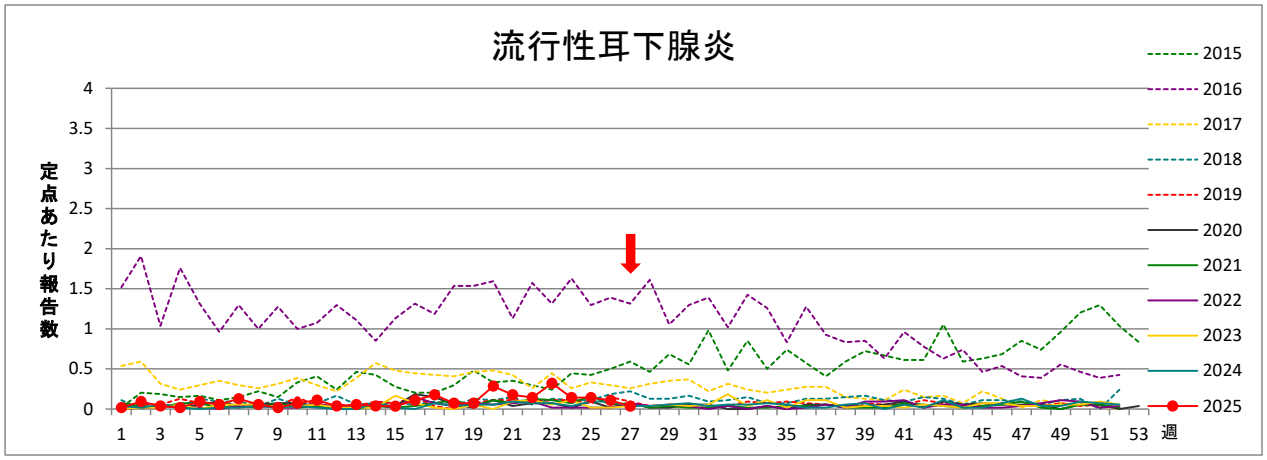

水痘
定点あたり報告数
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26
週
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026

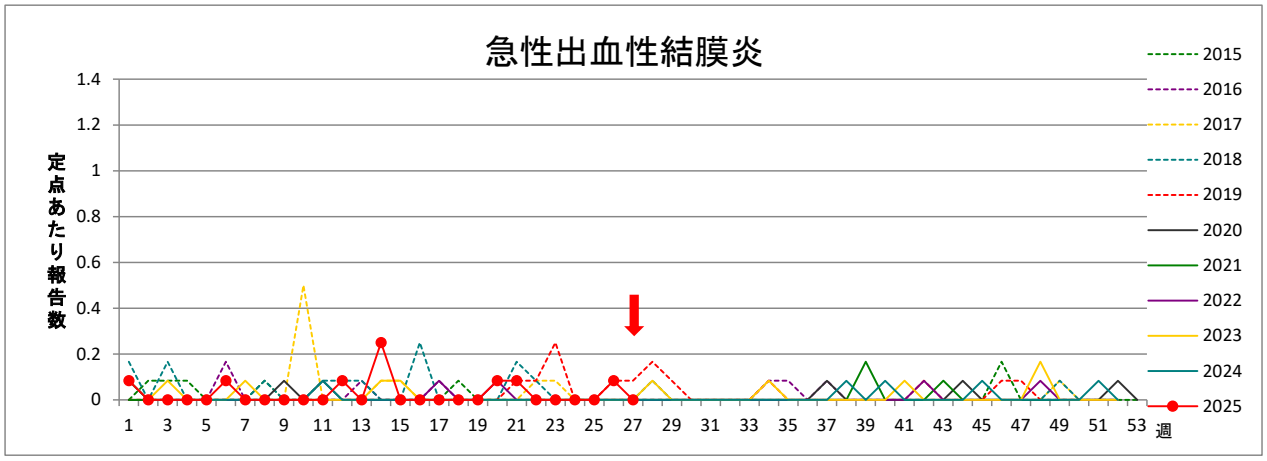

手足口病
定点あたり報告数
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025

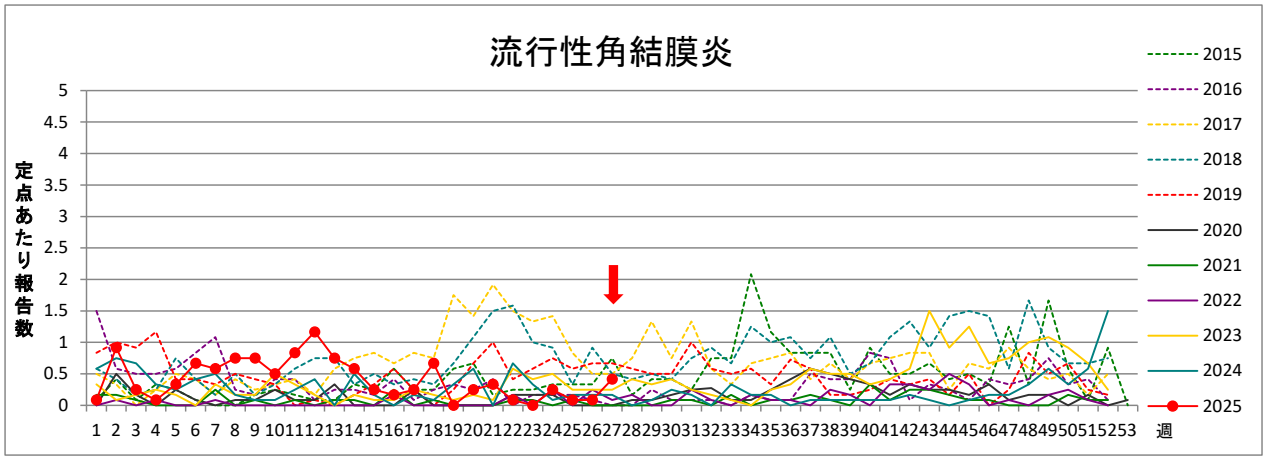

伝染性紅斑
定点あたり報告数
1.4
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
1 3 5 7 9 11 13 15 17 19 21 23 25 27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53
週
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025

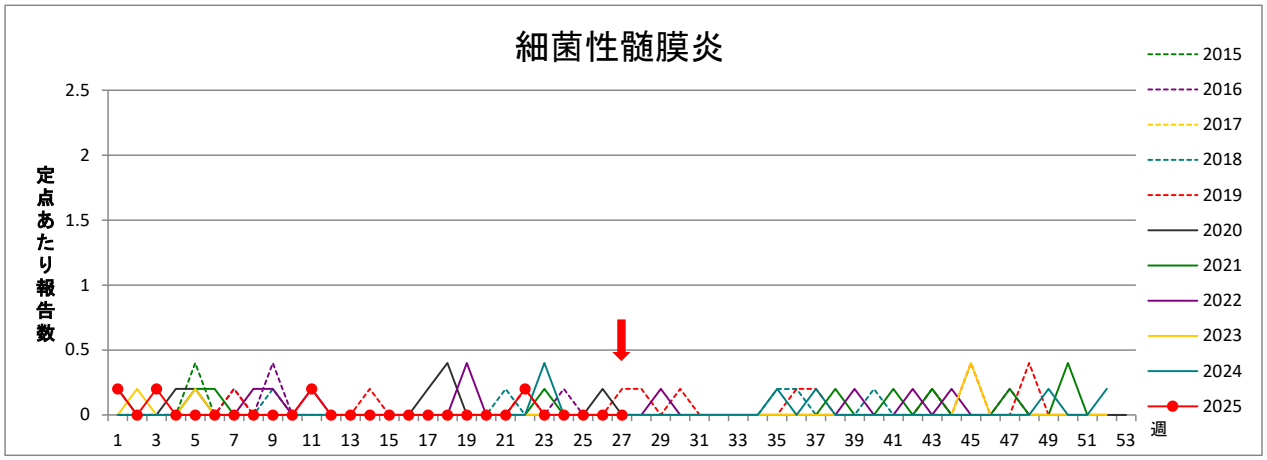

突発性発疹
定点あたり報告数
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
週

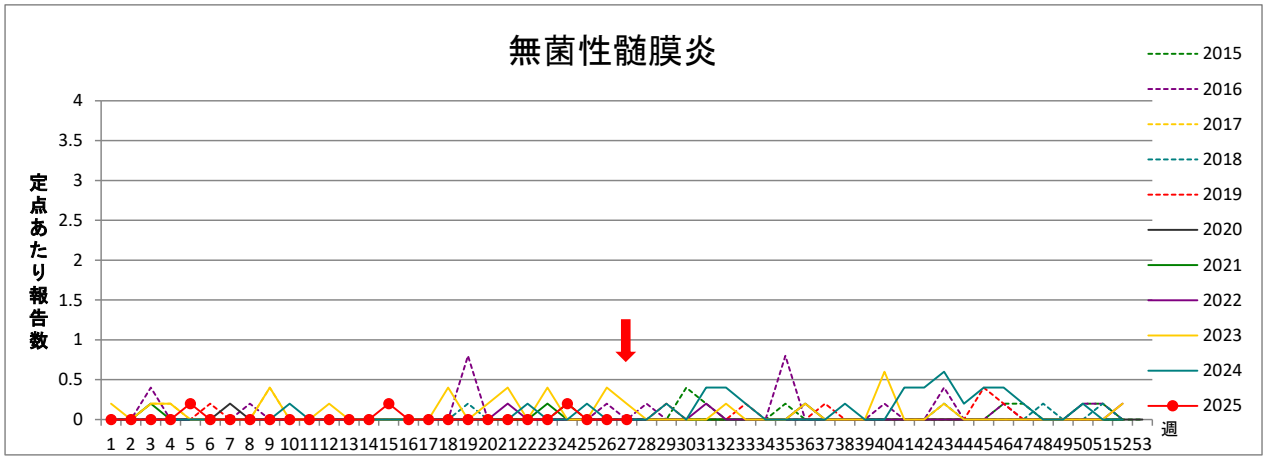

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
週

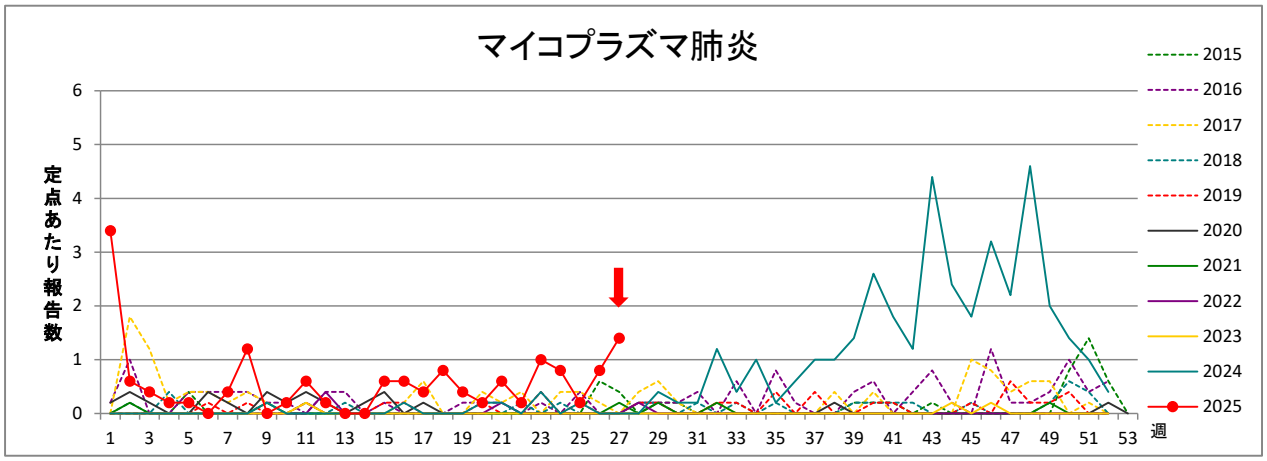

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
週

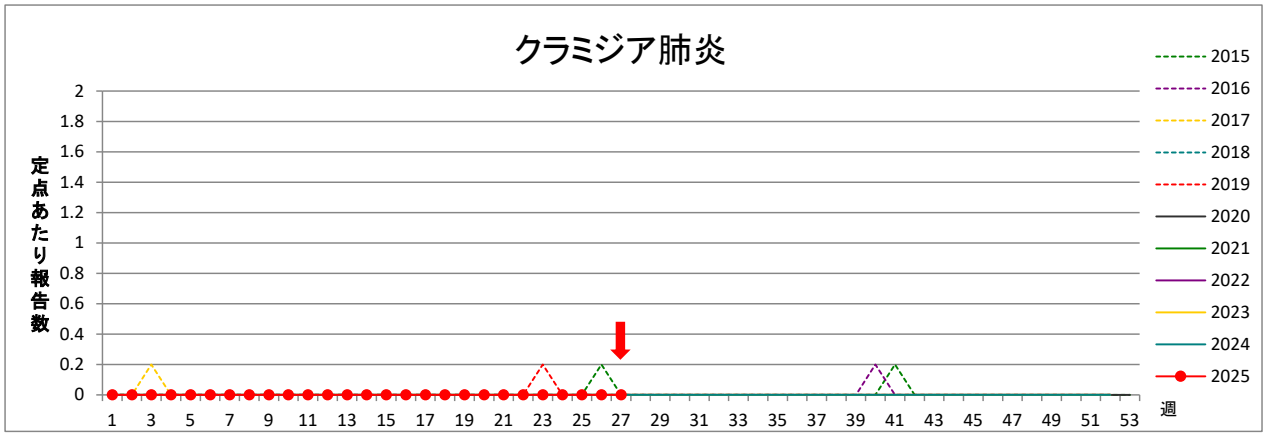

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
週

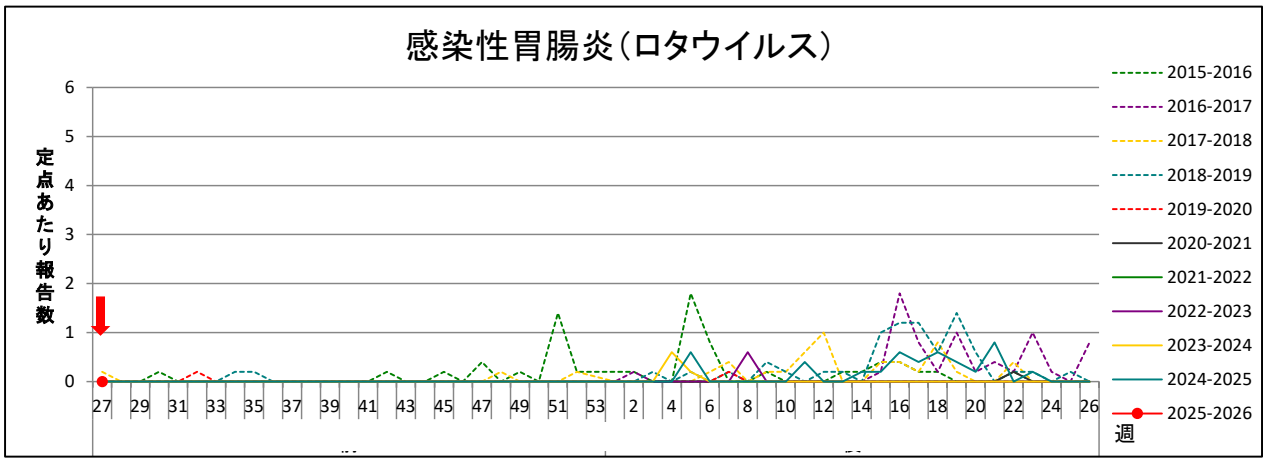

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
週


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
週


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
週


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025
週


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
2
1.8
1.6
1.4
1.2
1
0.8
0.6
0.4
0.2
0
1 3 5 7 9 11 13 15 17 19 21 23 25 27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53
週
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021
2022
2023
2024
2025


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
6
5
4
3
2
1
0
27 29 31 33 35 37 39 41 43 45 47 49 51 53 2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26
週
2015-2016
2016-2017
2017-2018
2018-2019
2019-2020
2020-2021
2021-2022
2022-2023
2023-2024
2024-2025
2025-2026